

2019年6月25日

1. 基本情報

- (1) 国名：インド
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：北東部地域（トリプラ州，アッサム州，メガラヤ州）
- (3) 案件名：北東州道路網連結性改善計画（フェーズ4）（North East Road Network Connectivity Improvement Project (Phase 4)）
- (4) 計画の要約：本計画は，インド北東部地域のトリプラ州カリヤシャルからテリラムラを經由しサブルームまでを結ぶ国道（総延長約290km）及びアッサム州スリランプルからメガラヤ州トゥラを結ぶ国道（総延長約148km）を新設・改良することにより，同地域の域内外の連結性向上を図り，もって同地域の経済発展の促進に寄与するもの。

2. 計画の背景と必要性

(1) 本計画を実施する外交的意義

インドは，民主主義や人権，法の支配といった基本的価値を共有するインド太平洋地域の主要国の一つ。首脳の年次相互訪問も行われており，2018年10月のモディ首相訪日時には「日印の共通のビジョンに基づき，自由で開かれたインド太平洋に向けて協働していくという揺るぎない決意」を改めて述べるなど，両国の関係強化が着実に進んでいる。また，アジアとアフリカという二つの大陸をつなぐインド洋に面し，シーレーンの中央に位置するインドは，自由で開かれたインド太平洋の鍵となる国であり，同国への支援は戦略的観点からも非常に重要である。

インド政府は，同国から東南アジアへの連結部分となるインド北東部を重視するアクト・イースト政策を提唱しており，日本に対しては，北東部開発におけるパートナーとなってほしいとの強い期待を示している。インド北東部支援の推進は累次の日印首脳会談で合意しており，2017年9月の日印共同声明では，「日印アクト・イースト・フォーラム」立ち上げに満足を持って留意するとともに，2018年10月の日印首脳会談では同フォーラムを通じた北東部の発展に向けた進展が歓迎された。本計画は，インド政府からの期待に応え，自由で開かれたインド太平洋とアクト・イーストが収れんするインド北東部への支援を具体化するものであり，実施の意義は大きい。

(2) 当該国における道路セクターの現状・課題及び本計画の位置付け

インド政府は2001年から国道開発計画（National Highways Development Project）を開始し，首都デリー，西部のムンバイ，東部のコルカタ，そして南東部のチェンナイを結ぶ「黄金の四辺形」をはじめとする大都市間の道路整備を進めてきた。2015年には，当初計画の全区間（7,522km）の道路建設工事が終了する等，主要幹線道路整備が進みつつある。

一方，北東部地域における全道路の舗装率は28.5%（全国平均：63.4%），国道における2車線以上道路の比率は53.0%（同77.9%）であり，土砂災害対策のための斜面舗装や排水路整備が進んでいない地域も多くみられる。このような道路整備の遅れは，同地域内での安定した物流を阻害し経済開発の遅れの一要因となっている。同地域の一人当たりGDP（2015-2016年）は76,540インドルピーと，全国平均の112,432イン

ドルピーとの乖離が大きく（インド準備銀行の統計データ）、インド政府は地域格差の是正を最重要課題の一つとして掲げている。

「北東州道路網連結性改善計画（フェーズ4）」（以下、「本計画」という。）が対象とする国道 208 号線は、トリプラ州を縦断し、バングラデシュ（以下、「バ国」という。）第二の都市で最大の港湾都市であるチッタゴンに至る道路に結節する国際流通網の一部を形成している。同地域において、インドはバ国に対し竹を含む農産物、果物や大理石等の鉱業資源を輸出し、加工石材、レンガ、タイル、セメント等の建設資材を主に輸入している。両国間の交易はトリプラ州都のアガルタラを經由しバ国国境に位置するアカウラ通関所を通じて行われているが、本計画によりトリプラ州南端の国境サブルームを經由することが可能になることで、インド国内からチッタゴンまでのアクセスを短縮する新たな流通経路が整備されることとなる。さらに、サブルームから接続するバ国側での回廊区間（ラムガール（バ側国境名） - バリヤルハット間）では、日印開発協力事業の一つとして、「クロスボーダー道路網整備計画（バングラデシュ）」を通じた橋梁改修支援が行われている他、産業集積地・港湾開発が進められるマタバリ地域に至る国道（チッタゴンと国道 1 号線で結節するチャカリア - マタバリ間）を「マタバリ港開発計画」を通じ整備予定であるなど、本計画はバ国側で進められている連結性・地域開発事業との高い相乗効果が期待されている。

一方で、国道 127B 号線は、アッサム州スリランプルにおいて、インドを横断する「東西回廊」の一部である国道 31C 号線と結節しており、北東部地域とインド他地域を結んでいる。また国道 127B 号線は、ブータンから北東部地域を縦断しバ国へと接続する国際回廊の一部も成す。

本計画にてこれら幹線道路を整備し、同地域における国際流通網の機能向上を図ることは、北東部地域内外の連結性の向上、人とモノの動きの活性化等を通じた経済効果発現や地域の安定に貢献する事が期待され、自由で開かれたインド太平洋構想の実現に資するものである。

インド政府は、自国の更なる発展に向けて 3 か年行動計画（Three Year Action Agenda：2017 年 4 月～2020 年 3 月）を策定し、その最重要課題の一つとして、北東部と隣接国の連結性の強化を掲げており、本計画は、こうした政策方針と一致するものである。

3. 計画概要

(1) 計画概要

① 計画内容

ア) 国道 208 号線（トリプラ州：約 290km, 2 車線道路（橋梁, 排水路, バイパス等含む）の改良及び拡幅

イ) 国道 127B 号線（アッサム州・メガラヤ州：約 148km, 2・4 車線道路（橋梁, 排水路, バイパス等含む）の一部新設, 改良及び拡幅

ウ) コンサルティング・サービス（設計, 入札補助等）

② 期待される開発効果：対象区間の乗用車換算台数（PCU）（台/日）の増加（現状は、トリプラ州 3,441 台（2015 年）、アッサム州 9,523 台（2015 年）、メガラヤ州 1,051 台（2015 年））、対象区間の移動快適性の向上、インド北東部から域内外・港湾等へのアクセス経路の整備・効率化が進むことによる国際流通網の機能強化を通じた地域の経済発展。

③ 借入人：インド大統領（President of India）

④ 計画実施機関／実施体制：国道インフラ開発公社（National Highways and

Infrastructure Development Corporation Limited)

- ⑤ 他機関との連携・役割分担：特になし。
- ⑥ 運営／維持管理体制：協力準備調査にて詳細確認する。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮：本計画は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）に掲げる影響を及ぼしやすい道路、橋梁セクター、影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当するため、カテゴリAに分類される。
- 他の援助機関の対応：アジア開発銀行は北東部地域の4州（アッサム州、ミゾラム州、トリプラ州、マニプル州）において道路接続投資事業を、世界銀行はミゾラム州において州道改良事業をそれぞれ実施している。
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）に該当し、協力準備調査にてジェンダー主流化ニーズを確認する。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

ベトナム向け円借款「サイゴン東西ハイウェイ建設計画」の事後評価等では、用地取得・住民移転の完了までに多くの時間を費やしたことを踏まえ、同プロセスにおいては想定以上の時間がかかることを念頭に置き、進捗状況を念入りにフォローし、計画全体のスケジュールに影響が出ないように一定の促進を図る事が重要との教訓を得ている。本計画においても、案件監理の一環として、用地取得・住民移転における定期的なモニタリング等を行う体制を検討していく。

以上

[別添資料] 北東州道路網連結性改善計画（フェーズ4） 地図

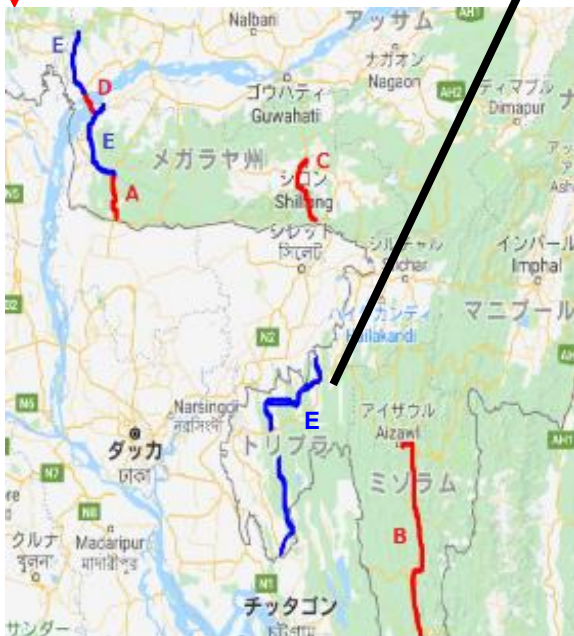
「北東州道路網連結性改善計画（フェーズ4）」 地図



(出典：©2019 Maps of India)



(出典：©2019 Google Map)



【拡大図】

参考として他フェーズの対象区間も記載

フェーズ 1

- ・ A 区間
- ・ B 区間 (バイパス含まず)

フェーズ 2

- ・ B 区間 (バイパスのみ)
- ・ C 区間

フェーズ 3

- ・ D 区間

フェーズ 4

- ・ E 区間

国道 208 号線：トリプラー州

国道 127B 号線：アッサム州部分及びメガラヤ州



(出典：©2019 Google Map)

- ・ アッサム州部分：
スリランブル～ドゥブリ
- ・ メガラヤ州部分：
ファキルガンジ～プルバリ～トウラ